

仁王塚遺構（仁王般若経読誦の庭：真言密教「立体曼荼羅」の庭）松本市今井

庭園発見の経過

私が以下の資料を木下氏から提供された。出展『長野県 民族の会通信』第262号 2017/12/1に木下守氏（現在は松本市博物館長であるが、当内容を発表した際は、文化財保護課長に在籍）。

一見して庭園であると直感した私は2018/11/1に木下氏と現地に調査に出かけた。

当日は原氏（発見当時は今井地区文化財調査委員会委員長）・市川董一郎氏（中野市）も調査の援助をしていただいた。

松本市今井の仁王塚（木下守氏寄稿内容）

はじめに

昭和47年に松本市今井史談か会が発行した『今井の石造文化財』に寛永11年（1624）の名号塔が紹介されている【注：後日寛文12年（1672年）の誤読判明】。

市内最古の名号塔？

単なる名号塔ではないと思われる。その理由は名号塔と同じ独特の彫り方で四つの如来の名号が刻まれていた。すなわち「南無阿弥陀仏」「南無釈迦牟尼仏」「南無阿闍（しゅく）如来」「南無宝生尊如来」の石塔が並んでいた。

その他に仏像を線刻した石碑が周囲に散乱し、中心の周囲を石組された塚上には、「奉稱讚仁王般若経一千部二世安（楽）」と刻まれた寛文12年の銘を持つ石碑が立っていた。どうやら、この名号塔は、仁王般若経を読誦した記念遺構の構成要素の一つのようである。

仁王塚の由来

塩原家の「家系、諏訪藩土塩原家」と表書きをされた古文書が出てきた。この文書は元禄13年以降に書かれたものであるが、これによると、塩原家の先祖三郎右衛門は「洗馬五騎」として小笠原長時に従って武田信玄と戦ったが破れ、武田氏支配下の郷原にあったが、郷原氏と論争となり今井に退いたといい、武田勝頼没落後に子孫が諏訪に移ったという。また、三郎右衛門の墓は法輪寺にあり、「寛永11年法事/仁王経千部修行仕仁王塚と申候」と記されている。

仁王塚は先祖塩原三郎右衛門の法事（おそらく33回忌）に際し、仁王経を千回読誦した記念に造立されたものであろうことがわかるのである。

諏訪塩原家の末裔の塩原彦男によると、以下のように述べておられます。「寛文頃は最も栄えていた頃なので、先祖の塩原三左衛門が本家の松本今井にあるどなたかにご連絡をし、ご相談して先祖の法事をしたのではないかと思います」。

仁王塚の構成

構成要素、

中央の塚上に仁王般若経の通読供養塔と三重塔線刻碑、

「眼耳鼻舌身」の五文字と、それに対応すると思われる種字を刻んだ碑

「即身口仏」と刻んだ文字碑

日月を描いた石

この塚を囲むように四体の如来の線刻線

奥の東側には四基の如来名号碑【「南無阿弥陀仏」「南無釈迦牟尼仏」「南無阿閼如来」「南無宝生尊如来」】

入口には獅子（巻き毛）・狛犬（スリムで角あり）と一對の隨身（冠・風折鳥帽子）が彫られた碑

入口付近には三基の墓碑がある

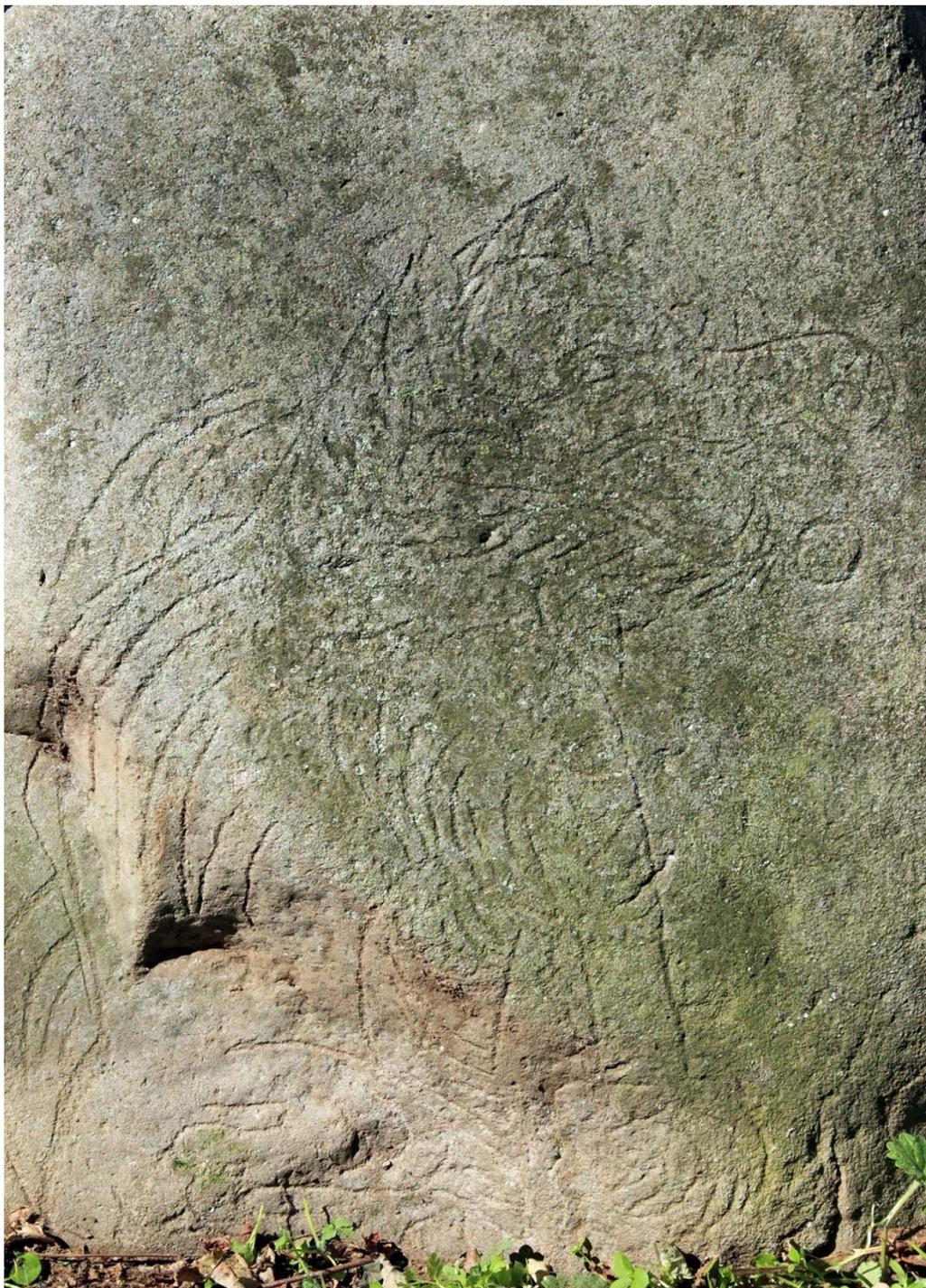
線刻像の特徴

北方守護の釈迦如来：開花連に乗り放射光を放つ、「三界万靈位六親眷属七世之父母有縁無縁貴賤靈芳六苦」

西方守護阿弥陀如来：二重光を負った来迎相

南無阿閼（しゅく）如来は薬師如来と同一視されたのか、薬壺を持っている

宝冠を被った菩薩像は宝生如来か？



守り神としての狛犬（獅子と一對）

纏め 1（概ねの配置位置の線刻像や文字を入口に向けて次頁に表示した）。

松本市今井塩原家の「仁王般若経」読誦の供養塚（金剛界・立体曼荼羅）



⑫南無釈迦牟尼仏



⑬南無阿闍如来



⑭南無宝生尊如来



⑮南無阿弥陀仏



⑪阿闍如来



⑯宝生如来



⑩釈迦如来



⑰阿弥陀如来



⑨隨身（烏帽子）



①三重塔（大日如来）②供養塔 ③五感



⑱隨身（冠）



⑥獅子（巻き毛）



入口



⑳狛犬（角がある）

纏め 2 : 五智如来の線刻像



北 4 (11) 薬壺を持った阿闍(しゆく)如来像は東



南 4 (16) 宝冠を被った宝生如来像は南



北 3 (10) 二重光を負った来迎相の釈迦陀如来像は北
「三界万霊位六親眷属七世之父母有縁無縁貴賤霊芳六苦」



南 3 (17) 阿弥陀如来は西

纏め3：入口の守り神



⑨：隨身（烏帽子を被っている）



⑱ 隨身(冠を被っている)



⑥ 獅子(巻き毛がリアル)



⑳ 狛犬

纏め4：東側にある四如来文字

南釈迦牟尼仏



南無阿闍如来



南無宝生尊如来



南無阿弥陀仏



纏め 4 : め五智如来 : 大日如来 (摩訶毘盧遮那如来)、を中心として、

東の阿閼如来 (あしゅくによらい) 、

南の宝生如来 (ほうしょうによらい) 、

西の阿弥陀如来 (あみだによらい) 、

北の不空成就如来 (ふくうじょうじゅによらい)

北方は天鼓雷音如来 (不空成就如来=釈迦如来) 当仁王塚では「釈迦如来」と表示
の5体をセットとした呼び名です。



纏め5：中央の大日如来・供養塔・五感石の構成



中央石組：三重塔(大日如来を象徴)線刻、仁王般若経の通読供養塔と「眼耳鼻舌身」の五感

中央の大日如来・供養塔・五感の単体で表示

三重塔(大日如来を象徴)線刻



奉稱讚仁王般若經一千部二世安口
寛文 11 年 (1671) 辛亥 10 月 8 日



眼・耳・鼻・舌・身

